

「GO-TA」施工チェックシート

■「GO-TA」施工時には、下記確認項目を必ずご確認願います。

チェック欄	確認項目
①	「GO-TA」を設置する住宅は本造軸組工法か。
②	「GO-TA」を設置する場所は、外壁の屋内側(断熱材の内側)及び内部壁か。
③	「GO-TA」を設置する柱、土台、胴差、桁及び梁の断面寸法は、105mm×105mm以上か。
④	「GO-TA」を設置する間柱の断面寸法は、30mm×105mm以上か。
⑤	ブレース(ブレースパイプ+連結ナット+ダンパー)の長さ(取り付け孔間位置)は、2,057mm以上2,757mm以下か。
⑥	「GO-TA」の取り付け柱の間隔は、900mm、909mm、910mm、1000mmか。(何れかに該当していること。)
⑦	ブレースパイプとダンパーは、連結ナットを用いて連結されているか。
⑧	連結ナットには、ブレースパイプとダンパー双方のおねじが同程度の長さずつねじ込まれているか。
⑨	取付ブラケットと柱は、専用ビス(φ6.3mm×65mm)を取付ブラケット1個につき10本用いて所定の位置に留め付けているか。
⑩	取付ブラケットと横架材は、専用ビス(φ5.4mm×45mm)を取付ブラケット1個につき6本用いて所定の位置に留め付けているか。
⑪	取付ブラケットは、柱及び横架材に直接かつ隙間無く取り付けられているか。
⑫	専用ビスは、首下までしっかりとねじ込まれているか。
⑬	ブレースと取付ブラケットは、M16専用ボルト、ナット(ばね座金付き)、平座金を用いて上部と下部を留め付けているか。
⑭	M16専用ボルトとナットは、しっかりと締結されているか。
⑮	ブレースは、ガタツキなく張っているか。
⑯	ブレース及び取付ブラケットに変形、破損、著しい錆び等の異常はないか。
⑰	間柱の切り欠きは、ブレース部分の最小限に抑えられているか。
⑱	間柱の切り欠きは、押さえ板によって補強されているか。
⑲	柱頭金物は、補正倍率(3.7倍)で選定された金物が設置されているか。

事前準備 間柱の加工/押さえ板(補強材)の加工

■「剛太」を設置する壁の間柱には、ブレースパイプの貫通部と「GO-TA」の座屈を防止する「押さえ板」を取り付ける欠き込みを施します。
間柱への欠き込みはブレースを取り付ける方向の横架材内法線の中間部に加工します。
ブレースパイプが貫通する左下図寸法AとBの差は、49～50mmを基本とします。

□ 欠き込み参考寸法: 間柱見付幅30mmにて

○ 欠き込み深さ	○ 欠き込み長さ
ブレース部(A寸法)	ブレース部
: 66.5mm (材幅105)	: 380mm程度
: 74mm (材幅120)	
押さえ板部(B寸法)	押さえ板部
: 17.5mm (材幅105)	: ブレース部から
: 24mm (材幅120)	: 上下各110mm程度

■ 押さえ板は、幅30～45mmの鋼線材などで、長さ600mm、厚さ: 18mm (材幅105)、24mm (材幅120)程度のものを使用してください。

【裏面】

制振ブレース「GO-TA」 株式会社タツミ

■「GO-TA」の施工に際しては、本[取付説明書(表裏)]、[「GO-TA」設計マニュアル]、[「GO-TA」施工マニュアル]並びに本巻末[「GO-TA」施工チェックシート]をご確認ください。

セット内容(同梱品)

※必ず同梱の専用品をご使用ください。
※ブレースパイプには各種サイズがありますので、設置箇所にご注意ください。
※()内名称は、壁倍率の大臣認定取得時に用いたものです。
※ブレースパイプ+連結ナット+ダンパーを連結したものを「ブレース」と称します。

- M16専用ボルト+平座金2枚+ナット(ばね座金付き): 2セット (接合用ボルト: 六角ボルト+平座金2枚+ばね座金+六角ナット)
- ブレースパイプ: 1本 (鋼製筋かい)



必要取付工具例(木材加工は除く)

- 専用ビス用ビット/ソケット+電動ドライバー等
柱用: 四角ビットNo.3若しくは六角M5(対辺8mm)
横架材用: 四角ビットNo.3
- M16ボルト・ナット取付用レンチ(対辺24mm)・・・2本
ラチェットレンチ・メガネレンチ・スパナ・モンキーレンチ等
- 釘・コーススレッド/金属棒φ12程度/金槌・・・等

ご注意・用途以外には使用しないでください。
・改造その他の加工、分解、加熱など行わないでください。
・施工に際しては、ケガ、事故などに配慮願います。

【表面】

①取付ブラケットの留め付け

■ 取付ブラケットは、軸組の対角に留め付けます。
取付ブラケットの中心と壁(軸組)の通り芯を合わせます。
※ 柱仕口の補強金物やアンカーボルトと干渉しないことをご確認ください。

【取付ブラケット位置】
【例: 材幅105mm】
取付ブラケット幅: 50mm

■ 取付ブラケットの軸組への留め付けは、取付ブラケット1個につき
柱 例: 長さ65mmの専用ビス各10本
横架材例: 長さ45mmの専用ビス各6本
にて留め付けます。

※ ブレースの長さ調節のために、上下双方の取付ブラケットのボルト孔間隔を測っておきます。

②ブレース(ブレースパイプ+連結ナット+ダンパー)の組み立て

■ ブレースの組み立て
連結ナット端部のライン刻印のある方向にダンパー、反対側にブレースパイプを連結します。ダンパーの左ねじとブレースパイプの右ねじを連結ナットにねじ込み、連結ナットを左下図矢印の方向に回し連結します。
両端部のボルト孔間隔は、前①にて測ったボルト孔間隔に合わせます。
右下図のおねじA部及びB部は、長さ調整及び強度に影響するため、均等な長さとなるように取り付けます。

ブレースパイプ側(右ねじ)

ライン刻印

連結(締む)

ダンパー側(左ねじ)

※ 長さの調節
連結ナットは、ターンバックル構造となっています。ブレースを伸ばす場合は、連結ナットを上左図矢印逆方向に回します。
連結ナットを回し辛い場合は、中央のφ13孔(4箇所)に金属棒などを差込み、回してください。

③取付ブラケットへのブレースの取り付け

■ ブレースの取り付け方向
外壁: ブレースは屋内側(断熱材の内側)に取り付け。
屋外側: 断熱材
屋内側

内部壁: 特に規定なし。

■ 上下部取付ブラケットのボルト孔とブレース両端部のボルト孔(φ16)が、概ね同じ間隔となるように、連結ナットを回して調節します。(調節方法は左下②を参照。)

■ ブレースの取り付け
ブレースはダンパーを下にして取り付けます。
□ 上部取付ブラケットとブレースの取り付け
M16専用ボルトと平座金をブレースパイプ取付部の反対方向から差込み、平座金とナットで留めます。

□ ブレースの長さの調節
下部取付ブラケットのボルト孔とブレース両端部のボルト孔にM16専用ボルトが差し込めるように連結ナットを回して調節します。

□ 下部取付ブラケットとブレースの取り付け
M16専用ボルトと平座金をダンパー取付部の反対方向から差込み、平座金とナットで留めます。

■ ブレース長さの調節
内側に引寄せするように、ボルト孔とM16専用ボルトにガタツキがなくなるまで、連結ナットを回して調節します。(調節方法は左②を参照。)

■ ブレースの固定
M16専用ボルト及びナットが供回りしないように、レンチ等を2本用いてしっかりと締め付けます。

■ ブレース長さの最終調節
連結ナットを1/4～1/2回転させ、張り気味に調節します。

【中面】

④柱と押さえ板(補強材)の取り付け

■ 間柱の取り付け
ブレースを取り付けた反対方向から、欠き込み部をブレースに向けて横架材に取り付けます。
間柱の上下を釘N75各2本斜め打ちにて横架材に留め付けます。

※ 予め本紙裏面『事前準備』の「間柱の加工/押さえ板(補強材)の加工」を行ってください。

■ 間柱の押さえ板欠き込み部に押さえ板を釘またはコーススレッド4本にて留め付けて完了です。

※ 内外装下地材及び耐力壁などの板材を釘・ビス留めず、上右図「C部」にてブレースと干渉する恐れがあります。適宜、釘・ビスの留め付け間隔を調整してください。